

PNLSC

2023 年度活動報告書

I 活動報告

1・フィリピン残留日系人の日本国籍回復支援事業

- (1) 残留日系人 2 世の身元探し
- (2) 就籍による 2 世、2 世死亡の場合の 3 世の日本国籍回復支援
- (3) 外務省(在ダバオ総領事)との合同 2 世面接
- (4) 国籍回復対象者のマッピングと意思確認
- (5) PA 会議
- (6) 残留日本人 2 世の新規登録推進のための広報活動
- (7) 亡くなった 2 世への出生事項等記載申出による国籍回復支援
- (8) 3 世、4 世の戸籍登載、国籍取得支援
- (9) 在日在比フィリピン日系人への相談・助言

2・フィリピン残留日系人 2 世の一時帰国支援事業

3・フィリピン残留日系人に関する研究、講演、広報、出版事業

- (1) 残留日本人 2 世全体数と内訳の集約
- (2) 広報・出版
 - ① PNLSC ニュースの発行
 - ② Nikkeijin News の発行
 - ③ ホームページ、SNS による発信
 - ④ オンライン寄付サイト「Give One」からの発信
 - ⑤ 「お宝エイド」への登録——物品寄付を通じたファンドレイジング
- (3) 講演 (4) 報道実績 (5) 報道への取材協力

4・フィリピン残留日系人に関する政策提言事業

- (1) 日本国籍取得後の 2 世がフィリピンを出国する際の罰金問題が解決
- (2) 国会議員へのロビー活動
- (3) 国連高等難民弁務官 (UNHCR) フィリピン事務所および駐日事務所との協力、連携
- (4) 外務省南東アジア第二課および在マニラ日本大使館との情報交換
- (5) 在京フィリピン共和国大使への働きかけ
- (6) 沖縄県知事への働きかけ

5・フィリピン残留日系人社会の経済的、文化的発展のために寄与する事業

- (1) パラワン島タイタイでリッターオブライイト制作と実用化実験を支援
- (2) 日系人会行事への参加及び支援
- (3) フィリピン日系人エッセイコンテストの企画と実施

6・その他事業

- (1) 移民 120 周年記念行事と PNLSC 設立 20 周年祝賀会
- (2) 戦前の写真絵葉書コレクションのフィリピンへの里帰りを仲介

II 組織の現状

1・会員数

2・会費、寄付の内訳

3・組織体制

4・会議

5・その他





1・フィリピン残留日系人の 日本国籍回復支援事業

(1) 残留日系人2世の身元探し

日本人父の身元（本籍地）が判明することは2世の悲願であると同時に、2世の国籍取得への大きな足掛かりとなる。2023年3月末時点で身元未判明の2世は922人（故人を含む）。フィリピン各地の日系人会から送られてきた調査票（ジェネラルレジストレーション：GR）をもとに、日本国内で、資料・文献調査、親族照会、申請者へのオンライン聞き取りまたは日系人会スタッフやマニラPNLSCスタッフを通じた追加聞き取り調査などを実施し、今期は2世9人（対応する1世数3人）の身元が確認判明。

PNLSC 設立以降 2023 年 12 月末までに身元が判明した2世数は705人となる。

身元探しのための2世ないし家族面接はオンライン、対面で随時実施した。

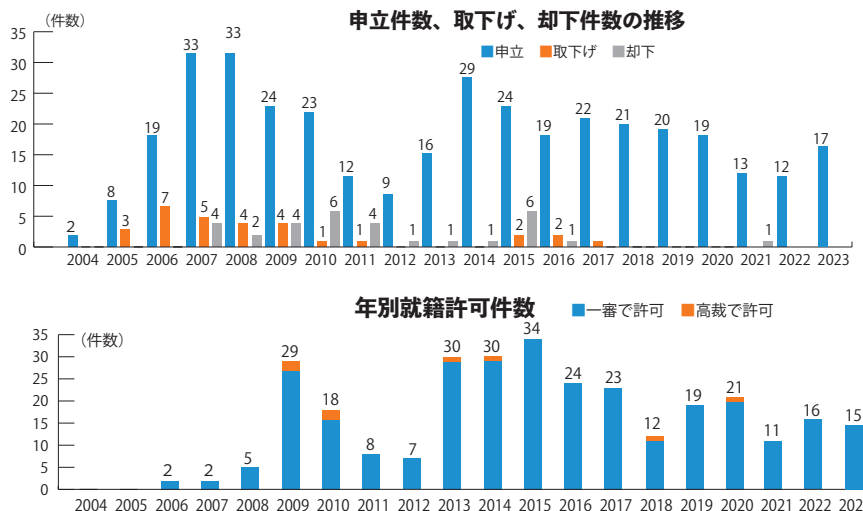
(2) 就籍による2世、2世死亡の場合の3世の日本国籍回復支援

無国籍の2世17人（全員、父戸籍判明済みケース）、3世4人の計21人の日本国籍回復を支援し、弁護士を代理人とした家庭裁判所への就籍許可申立てを完了した。21人のうち12人は同年度内に許可が下りた。前年申立てた分を含めると2023年中の許可総数は15人。

事業開始から2023年12月末日までに、2世308人、2世死亡の3世14人が、就籍により国籍を回復した。

PNLSCでは証拠の収集、整理、翻訳、申立人の陳述書録取等を担当。弁護団に配転し申立て。

※申立てにかかる弁護士費用や翻訳、諸経費実費について、2020年から日本弁護士会連合会の法テラス委託援助事業を活用（事件ごとに代理人弁護士が申請）し、援助を受けている。



日本国籍を希望するが申立てに至らない2世がいまだ100人弱残る。2世の出生証明書（遅延登録）がフィリピンで作成できない、父母の婚姻の情報がない、日本人父についての情報が乏しいなど難しいケースが多い。ネックとなっている共通課題を解消し、個々の申立てを一歩でも前に進めると同時に、「時間ぎれ」とならないよう、残る人たちの一括救済の道を模索していく必要がある。

※4・政策提言事業（2）以下を参照。



フィリピン国家統計庁（PSA）と連合会の協議に日本大使館とともに参加

就籍許可申立てができないケースに共通する課題の1つが、フィリピンで出生証明書等の遅延登録が作成できていないこと。戦災滅失で出生証明書がない戦前戦中生まれの日系人の出自を確立するため、日系人会連合会と、PSAの前身である国家統計局（NSO）が協定を結び、NSOから地方自治体の登録窓口（LOR）に通達が出された1994年から30年近く経過し、新しい地域で日系人会が発足していることなどから、連合会とPSAの協定（MOA：メモランダムアグリーメント）を更新し、全国のLORに改めて日系人の遅延登録に理解を促すための話合いを2022年12月から開始。2023年は6月7日にイネス連合会会長、ステファンズニ副会長、猪俣、ズニエガ弁護士がPSAを訪問し、意見交換した。日本大使館から岡島洋行公使兼総領事（当時）、牧野参事官も参加。



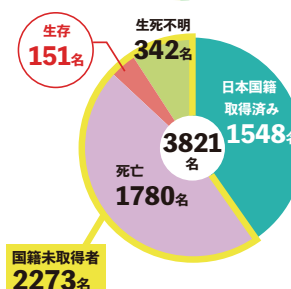
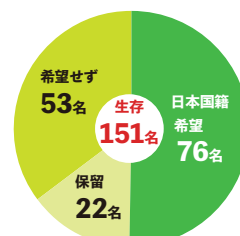
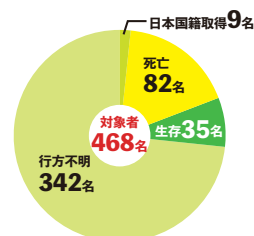
（3）外務省との合同2世面接

PNLSCは日系人会と連携し面接候補の決定、面接資料の準備、コーディネートを行い、実際の面接では、猪俣が日系人会役員やスタッフとともに同席し補佐した（セブ、イロイロでの面接にはイネス連合会会長も同席）。総領事面接を行った36人中17人につき総領事報告書が発行され、うち6件が家庭裁判所に提出され、5件許可となった。※面接をしても出生証明書がない人には総領事報告書が発行されない現状につき、改善を検討中（第三者による証書を証拠として採用するなど）。

1月30日	サンボアング（3人）	3人	石川総領事 猪俣	外務省第16次調査 (2022年9月15日 -2023年3月31日)の一環
2月13～17日	ダバオ（16人）	16人		
5月15日	コタバト、ジェンサン（4人）	4人		
9月15日	マティ	1人		
9月8日	マニラ	5人	花田公使、山口領事	外務省第17次調査 (2023年6月15日 -2024年3月15日)の一環
12月2日	セブ（5人）	5人	花田公使、矢富領事	
12月3日	イロイロ	2人	後藤領事	

（4）国籍回復対象者のマッピングと意思確認（外務省第16次調査、第17次調査）

- ①日本国外務省・アジア大洋州南東アジア第二課から委託を受け「第16次フィリピン残留日系人2世調査」（～2023年3月31日）として、無国籍のリスクにあるフィリピン残留日本人2世461人の消息調査、日本国籍取得状況、未取得の場合日本国籍取得の意思確認を行った。新規登録2世7人を加えた468人の内訳は右グラフの通り。
- ②2023年3月末時点で生存確認がとれている151人中、76人について、日本国籍取得の意思を確認した。
- ③日本国外務省・アジア大洋州南東アジア第二課から委託を受け「第17次フィリピン残留日系人2世調査」（～2024年3月15日）として、98（76+22）人の国籍取得の加速化と、生死不明の342人への総当たり調査（消息調査、日本国籍取得状況、未取得の場合日本国籍取得の意思確認）を実施中。



(5) PA 会議（日系人会ごとのプロジェクト進捗確認会議）

国籍回復支援事業の現地カウンターパートである日系人会のプロジェクト担当者(PA) と、コロナ禍以降は、オンラインでプロジェクトの進捗確認を行ってきた。

- ① 1月26日に、8つの日系人会の全PAが参加する全体PA会議(オンライン)を開催。
- ② 6月15日からの外務省第17次調査以降は、地域の実情に合わせ、より具体的かつ緻密な意見交換を行うため、全PA参加ではなく、日系人会ごとに、PNLSC事務局と会議をもつこととした。内容はプロジェクトの全体課題の共有、消息不明の日系人の対象者確認、調査の進め方の検討、進捗確認、総領事面接の候補者や予定、就籍申立準備の進捗確認、成果報告など。プロジェクト担当者だけでなく日系人协会会长(役員)もこれに参加してもらうこととした。

6月20日 北部ルソン比日基金 / ダバオ PNJK

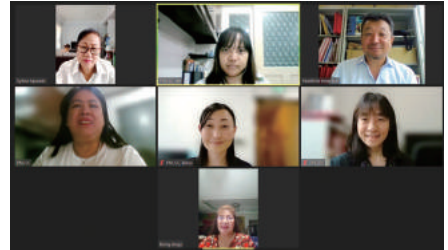
6月21日 サンボアンガ日系人会

6月22日 パコロド日系人会 / パナイ日比

6月23日 パラワン日系人会 / セブ日系人会

10月19日 パナイ日比 / パラワン日系人会 / パコロド日系人会 / セブ日系人会

10月20日 北部ルソン比日基金 / サンボアンガ日系人会 / 中部ルソン比日基金 / ダバオ PNJK



年1回、日系人会役員、スタッフが一同に会し、事業の進捗や計画を共有する「事業進捗報告会議」（コロナ前まで連合会総会の前後日程で対面開催していた）については本年度も実施しなかったが、代表猪俣が、イネス・マリヤリ連合会会長と密に情報を共有した。

(6) 残留日本人2世の新規登録推進のための広報活動

- ① 反日感情がとりわけ強く、日系人会がようやく2022年に誕生したばかりのパラワン島での日系人の名乗り出を促すため、8月8日、猪俣が第56回パラワン州議会で、フィリピン残留日本人の歴史についてスピーチし、協力を訴えた。またパラワン州知事のデニス・ソクラテス氏、州都プエルトプリンセサ市のルシオ・バイロ市長の事務所を訪問し、プロジェクト周知への協力を訴えた。
- ② 11月、ネグロス地域の地元紙にプロジェクトについての広告を掲載。PNLSC、日本大使館、日系人会の連絡先を掲載した。
- ③ 12月、パナイ日比協会会長が地元ラジオに出演してプロジェクトを説明し、登録を呼びかけた。



(7) 亡くなった2世への出生事項等記載申出による国籍回復支援

父の戸籍は判明しているが2世が戸籍に記載されないまま亡くなった2世16人について、3世等を申出人とする「出生事項記載申出」を、父親の本籍地役場に提出した（再提出を含む）。2件が年度内に記載許可（兄弟が就籍を許可された直後に父母婚姻と死亡の兄弟の出生事項記載申出をした事例）、6件は現在までに不許可ないし不受理、7件が継続審査中。前年度に提出した申出への許可は別途2件、不許可1件、継続審議中5件）。

前年度までに不許可となり管轄家裁に（市町村長の不受理決定に対する）不服申立てをしていた4件につき、2023年中に審判があり、遅延登録を認めたうえで2世の死亡届の受理を命じる審判がおりた。結果、出生、婚姻、死亡が記載されることになる。不服申立てによる同じ方式での実質勝訴は通算7件。2023年度も新たに1件不服申立てし、係属中。





法務局の遅延登録への厳しい見方は年々強まる傾向

1990年代後半からこの出生事項記載申出の方法で国籍を回復した2世（死亡の2世含む）は相当数にのぼる。1世戸籍が判明していて重婚でない限り、2世が亡くなくても3世が申出できる。

ところが2008年頃から不許可事例が増え始め、この傾向は強まるばかり。出生証や婚姻証が滅失ないし部族婚などで登録がないため、後から遅延登録で作成していることが問題視されているようだ。フィリピンの制度に基づき正規の手続きを経て登録されているにもかかわらず、各市町村役場及び法務局に配られている某文書には

「当該証明書の登録の基礎とされた資料等を、総合的に審査し、当該身分行為があったと認められるときには…管轄法務局の長の許可を得て記載してよい」「一方…確実な資料の裏付けがない場合や…信憑性に疑義がある場合は…応じることはできない」

と記されており、結果、各管轄法務局は厳密な登録の基礎資料の提出がなければ認めないと判断している。

南東アジア二課の仲介で法務省民事局と会合

こうした中、1月13日 外務省南東アジア二課の仲介で、法務省民事局との話し合いが実現した（河合代表、青木理事、事務局：猪俣代表、石井、田近）。法務省民事第一課長以下4名と忌憚のない意見交換ができたことは有意義だった。継続的に話し合いを持つことが望ましかったが、南東アジア二課の担当者の異動が相次いだこともあり、今回は2024年に持ち越しとなった。

（8）3世、4世の戸籍登載、国籍取得支援

国籍回復済み2世男性の子である3世13人、孫である4世3人、ひ孫である5世1人につき、出生事項記載申出による戸籍登載・国籍取得を支援した。3世5人、4世2人が戸籍に記載され、10人が継続中（3世8人、4世1人、5世1人）。前年度からの継続中案件も1件。

また、就籍許可後の2世女性の子である在日の3世3人、戸籍登載で戸籍に名前が載った死亡の2世女性の子である在日の3世2人について、3か月以内に居住地の管轄法務局に国籍取得の希望を申し出て可能となる「国籍取得」の手続きを支援し、継続中。

（9）在日在比フィリピン日系人への相談・助言

在日在比のフィリピン日系人（3世・4世を含む）からの、戸籍登載、国籍取得、帰化、日本国籍取得等に関する相談に応じた（電話／メール／来所）。

相談例●身元探し（在カナダのフィリピン日系人の来所1、メールによる相談3）

亡くなった2世の戸籍登載の可否や手続きの進め方について

3世の戸籍登載／3世就籍について（2世が男性の場合）

3世の国籍取得について（2世が女性の場合で、2世の就籍直後の申請）

4、5世の国籍取得について／3世の帰化について／在留資格の更新について



2・フィリピン残留日系人2世の 一時帰国支援事業

2023年8月にダバオで会った2世の「父の顔を知りたい」という願いを叶えたいと、塩村あやか参議院議員がクラウドファンディングによる一時帰国を提案。塩村議員と猪俣が呼びかけ人となった For Good によるクラウドファンディングでは、目標の100万を達成、**ダバオ出身のカナシロロさん**（日本名マサコ・80歳）と**パラワン出身のアカヒジサムエルさん**（81歳）という、沖縄出身の父を持つ2世



の一時帰国が実現した。計画が浮上した時点では2人の身元は未判明であったが、当所の調査と、沖縄ダバオ会や報道関係者への身元捜しへの協力呼びかけ、事前調整（猪俣が10月27日に県庁記者クラブで記者レク、また12月9日から2泊3日で直前調整のためマニラから訪沖）により、最終的に、2人とも、親族の可能性のある方たちに温かく迎えていただくことができた。



渡航のためには無国籍認定を受けてフィリピン外務省発行の「トラベルドキュメント」の発給を受ける必要があったが、アカヒジサムエルさんの出生証明書の遅延登録作成が遅れていたことから、認定が間に合わない可能性が浮上。事前に猪俣がフィリピン司法省、入国管理局に話を通し、フィリピン司法省・難民及び無国籍者保護課のスアレス弁護士がパラワン島に飛び（猪俣、ズニエガ弁護士も同行）、面接を実施、ぎりぎりとなるも、人道的配慮から無国籍認定があり、フィリピン外務省、日本大使館ともにトラベルドキュメントでの渡航手続きに全面協力、無事渡航がかなうこととなった。



本番の日程は以下の通り。全行程、塩村あやか参議院議員が同行。PNLSCからはカナシロロサさん親族対面に田近が、アカヒジサムエルさん親族対面に猪俣が付き添った。

- 12月14日 福岡経由で沖縄入り直後、外務省の宮川学沖縄担当大使と面会
- 12月15日 休養、観光
- 12月16日 別行動でそれぞれ親族宅へ。父の墓参、親族と交流
- 12月17日 平和祈念資料館、平和祈念公園、平和の礎、ダバオの碑を訪問
- 12月18日 県庁にて玉城デニー沖縄県知事と面会、沖縄県立図書館表敬訪問



玉城デニー沖縄県知事と面会

本一時帰国費用（104万5862円）は、企画者である塩村あやか参議院議員によるクラウドファンディングと「フィリピン残留日本人二世応援募金」によって賄われ、さらに余った金額192,831円を寄付していただいた。これより事前準備や宿泊費などで別途PNLSCが支出した費用442,773円の約43%はカバーされた。

クラウドファンディングと募金集めの成功は、東京新聞、中日新聞一面で報じられたことが大きい。当所連絡先が記載されていたことから、QRコード決済ができない高齢者から多く連絡が入り、当所活動を知ってもらう機会となり、別途、大口寄付や会員拡大にもつながった。



3・フィリピン残留日系人に関する研究、講演、広報、出版事業

（1）残留日本人2世全体数と内訳の集約

外務省第16次調査の一環として実施した残留日本人2世の消息調査（対象者468人）にとどまらず、残留2世の動態把握についての情報収集、調査につとめ、データベースに反映、第16次調査報告時点で2023年3月末時点でのフィリピン残留日本人2世の全体像（身元判明状況、生存死亡、国籍取得の有無等内訳）を明らかにした。（1・（4）参照）。この調査は常時継続しており、次回集約は2024年3月15日の第17次調査終了時。



(2) 広報・出版

① PNLSC ニュースの発行

77号から80号までの4号を発行(1月、4月、7月、10月)し、会員、支援者、関係諸団体に発送、また映画「日本人の忘れもの」上映イベント等で配布した。各1300部印刷。希望者、関係者にPDF版をメール配信。

② Nikkei-jin News の発行

同じタイミングで59号から62号までをPNLSC Inc. と共同で発行し、フィリピン国内では各日系人会や日系人会員に配布、日本国内では日系人会員に直接、また日系人を雇用する企業に送付した。各900部印刷。希望者、関係者にPDF版をメール配信。

③ ホームページ、SNS による発信

団体ホームページをリニューアルし、報告やマスコミ報道の告知を行った。

<http://pnlsc.com/>

フェイスブックの公開グループ< PNLSC JAPAN >及び< PNLSC Manila >で随時情報発信した。

<https://www.facebook.com/groups/pnlscjapan/>

<https://www.facebook.com/pnlsc/>



④ オンライン寄付サイト「Give One」からの発信

公益財団法人パブリックリソースセンターが運営する「オンライン寄付サイト Give One」(<http://giveone.net>)に2020年5月から登録し、寄付プロジェクトとして「フィリピン残留日本人2世国籍回復支援プロジェクト」を掲載している。同サイトを通じ、匿名で毎月の継続寄付がある。



⑤ 「お宝エイド」への登録——物品寄付を通じたファンドレイジング

2021年度から、物品寄付を通じてNPOを応援する仕組みを展開する「お宝エイド」(寄付物品の査定額に10%上乗せした額がお宝エイドを通じて寄付者指定のNPOに振り込まれる)に登録。2023年度中は5口の物品寄付が44万9946円の寄付につながった。今後、さらなる周知に努めていく。

ボランティアのみなさまが大活躍！

ニュースレター発送作業には、ボランティアさんが大活躍。随時4～5人の方が発送前準備作業(切手、宛名シール貼り)及び、ニュースの折り、封入作業を手伝って下さっています。ボランティア登録人数も増え、本当にありがたいです。できる範囲で、来られるときに。今後もボランティア登録を呼び掛けていきます。



(3) 講演

- ① 1月10日、城西大学で猪俣が講義。
- ② 2月19日、立正佼成会リーダー育成講座に猪俣が参加(オンライン)。
- ③ 4月21日、アジア生協協力基金助成金成果報告会に猪俣が参加(オンライン)。
- ④ 7月29日、30日、ボレボレ東中野での映画『日本人の忘れもの』上映後トークイベントに、小原監督とともに石井、田近が1日ずつ登壇した。
- ⑤ 7月20日、当所アルバイトスタッフの剣持彩人さんの企画で、東京大学駒場キャンパスにてダイアナカルティカ准教授主催「日本人の忘れもの」上映会&オンライン・トークイベントに、代表理事河合、猪俣、及び事務局長石井が参加(他にダバオから石川義久ダバオ総領事、イネス・マリヤリ連合会会長が参加)。

(4) 報道実績(新聞31、Web媒体15、テレビ5)

●新聞(31)

2月14日	共同通信	二つの祖国(上)
2月15日	共同通信	二つの祖国(中)

●Web媒体(15)

1月16日	佼成新聞デジタル	「忘れられた日本人」猪俣代表コラム連載(月1回・7月まで)
-------	----------	-------------------------------



●新聞 (31) …前ページからの続き		
2月16日	共同通信	二つの祖国 (下)
2月20日	まにら新聞	国籍回復目指しダバオ総領事館聞き取り調査
3月9日	読売新聞	原田ロサリナインタビュー
3月22日	まにら新聞	移民120周年②松田サクエインタビュー
3月31日	まにら新聞	酒井ミチコ叙勲
4月15日	朝日新聞	白木アイダ日本国籍取得
7月26日	熊本日日新聞	熊本ルーツに日本国籍
7月26日	沖縄タイムス	比残留の3人 日本国籍回復へ
8月1日	東京新聞	映画日本人の忘れもの ポレボレで上映
8月2日	共同通信	比残留日系2世 日本国籍回復へ
8月8日	共同通信	パラワン島に日系人 戦後の苦難を議会で初演説
8月15日	共同通信	比、残留邦人への罰金免除 訪日阻む人道問題に終止符
8月17日	まにら新聞	就邦人の罰金問題解消へ
8月17日	まにら新聞	ダバオ慰霊祭
9月12日	静岡新聞	82歳 念願の“初帰国” (小山マルガリータヒロコさん)
10月27日	琉球新報	父の故郷 親族に会いたい 比残留2世2人来沖へ
10月27日	沖縄タイムス	比残留2世が肉親探し12月来沖 情報求める
11月9日	琉球新報	比残留2世の親族、平安座で調査
11月13日	東京新聞	残留2世 祖国へ
11月23日	沖縄タイムス	比残留2世の親族調査 平安座島の住民ら奔走
11月25日	共同通信	比で日本人移民120周年事業 無国籍の2世救済が焦点
12月10日	沖縄タイムス	「赤比地敷さん」父の可能性 残留邦人2世の金城マサコさんとアカヒジ・サムエルさんがマニラ国際空港から日本へ出発
12月15日	まにら新聞	フィリピン残留の日本人2世、沖縄で涙
12月15日	琉球新報	80年・・・やっと父の故郷に
12月17日	沖縄タイムス	親族と交流 父の面影
12月18日	沖縄タイムス	比残留2世 刻銘碑に涙
12月18日	琉球新報	平和の礎 父の名に涙
12月25日	まにら新聞	日本人が撮った100年前のフィリピン

●Web 媒体 (15) …前ページからの続き		
1月23日	Kyodo News	フィリピンの日系人集落に明かり 戦後残留「見捨てず支援」
7月25日	Kyodo News	比残留3人、日本国籍回復へ 戦後78年「遅過ぎる」
8月8日	Kyodo News	戦後の苦難を議会で初演説 フィリピン、パラワン島の日系人ら
8月23日	NHK	戦後78年 ようやく私は日本人になりました
9月21日	Kyodo News	外交官が比の日系人と面接 国籍回復へ家裁に報告書
10月26日	QAB NEWS	特集・フィリピン残留日本人2世 親族を探す
12月14日	NHK 沖縄	フィリピンの残留日本人2人 父親の親族と対面のため日本に
12月15日	RBC	無国籍のフィリピン残留日本人2世 自身のルーツを求めて沖縄に到着 親族と対面へ
12月15日	QAB NEWS	フィリピンの残留日本人2世沖縄訪問
12月16日	The New Lens Japan	「父の話聞きたい」フィリピン残留日本人2人が肉親探しに沖縄を訪問 19日まで滞在
12月18日	QAB NEWS	フィリピン残留日本人2世のカナシロ・ロサさん(80)を密着
12月19日	QAB NEWS	特集 父の面影求めて フィリピン残留日本人2世の男性
10月27日	琉球新報	父の故郷 親族に会いたい 比残留2世2人来沖へ
10月27日	沖縄タイムス	比残留2世が肉親探し12月来沖 情報求める
11月9日	琉球新報	比残留2世の親族、平安座で調査
11月13日	東京新聞	残留2世 祖国へ
11月23日	沖縄タイムス	比残留2世の親族調査 平安座島の住民ら奔走
11月25日	共同通信	比で日本人移民120周年事業 無国籍の2世救済が焦点
●テレビ (5)		
1月13日	NHK	「解説委員室」無国籍問題って何?
8月5日	TBS	「テレメンタリー 2023」彷徨い続ける同胞
8月11日	NHK World	[Japan news]Japanese descendants in Philippines struggle for citizenship
11月24日	NHK World	[Japan news]Torn Apart: Enduring Dream to Reunite
12月31日	TBS	「テレメンタリー 2023」スペシャル再始動 ～記憶を記録に～

(5) 報道への取材協力

①フィリピンで生き別れた弟妹を探したいと願うダバオ生まれの沖縄の女性に密着した**NHKワールド**の取材に協力して9月17-19日 田近が宮城照子さん(92)のダバオ訪問に付添い、親族捜しをサポートした。

②「**テレメンタリー**」(**テレビ朝日**)の日本人2世のドキュメンタリー企画「彷徨い続ける同胞」制作の取材に猪俣が全面協力。5月10～11日パラワン出張(モリネ姉妹訪問)。7月2～4日、沖縄出張(モリネさん親族、沖縄県歴史資料館、沖縄県立図書館での訪問調査)。

③ダバオでのフィリピンへの日本人移民120周年の前後、佼成出版記者とカメラマンが猪俣に密着同行取材。11月27日には石川総領事と猪俣の対談を収録。



見逃し
配信中!



4・フィリピン残留日系人に関する 政策提言事業

(1) 成果：日本国籍取得後の2世がフィリピンを出国する際の罰金問題が解決

かねてから、日本国籍を取得した2世が日本旅券でフィリピンを出国する際に請求される、出生時から現在までの不法滞在についての多額の罰金を、人道的配慮から免除してほしいと、政府、国会議員に要望し





ていたところ、赴任したばかりの花田貴裕公使の尽力により、7月5日、フィリピン司法省は、「フィリピン日系人に関するガイドライン」を発行。事前に入国管理局に大使館発行の日系人であることの証明書などを提出すれば、罰金は猶予(事実上の免除)されることになり、積年の問題が急転直下解決した(写真上・司法省との協議)。大使館が証明書を発行する前段階の準備から BOrder 取得までは PNLSC が支援する。

このガイドラインが適用された最初のケースとして、2017 年に就籍許可が下りて日本国籍を取得しながら、罰金を恐れて帰国できずにいた小山マルガリータヒロコさんが、9月10日に日本旅券で帰国。猪俣、ズニエガ弁護士が入管に付添い手続きを支援。前日には日本大使館による記者会見が行われ、出発当日は大使館の花田公使、山口領事も見送りにかけつけ、円滑な出国を見届けた(写真下)。12月6日には第2号として酒井エステリタミチコさんが、同様の手続きを経て親族のいる日本に帰国を果たした。

(2) 国会議員へのロビー活動

- ① 8月、当所賛助会員でもある塩村あやか参議院議員のフィリピン、ケソン州インファンタ(大叔父の戦没地)訪問、及び、ダバオ市ミンタルの日本人墓地での慰霊祭参加と残留2世との面会をコーディネートし、全行程に猪俣が同行。残留2世問題を深く理解いただき、ダバオで会ったカナシロロサさんの願いを叶えたいとの同議員の熱意と行動力により、クラウドファンディングによる沖縄一時帰国が実現(前述)。募金集めを兼ね、猪俣と塩村議員とで立憲民主党議員11人と日比友好議員連盟事務局長の大塚拓議員を回り、一時帰国について支援を求めた。
- ② 日比友好議員連盟の事務局次長 青山大人議員と定期的に情報交換した。

(3) 国連高等難民弁務官 (UNHCR) フィリピン事務所および駐日事務所との協力、連携

- ① 2022年12月20日に実施されたUNHCR議員連盟とUNHCR駐日事務所共催勉強会のフォローアップ会合が、2023年2月8日に非公式で開催され、UNHCR議連幹事の猪口邦子議員の進行で、法務省民事局、厚外務省、生各担当者と意見交換した。議題はもっぱら出生事項記載申出に係るフィリピンの遅延登録の証明書の問題。PNLSCからは河合代表理事、青木理事、事務局2名が参加。
- ② UNHCR駐日事務所担当者とは随時、情報交換した。
- ③ 8月23日、UNHCRフィリピン事務所との無国籍認定申請に係る会議に、猪俣とズニエガ弁護士が出席。

(4) 外務省南東アジア第二課および在マニラ日本大使館との情報交換

早急かつ効果的な2世の国籍回復の実現に向けた施策のため、外務省南東アジア第二課と密に情報交換した。また、在マニラ日本大使館の公使、総領事、参事官、領事、在ダバオ総領事とも密に連携をとった。

(5) 在京フィリピン共和国大使への働きかけ

- ① 2022年12月に着任したダバオ出身のミレーン ガルシア J. アルバノ大使が、ボランテー等領事他2名とともに2月27日に来所、残留日本人の国籍回復に係る問題点や解決策について意見交換した。当所所蔵の戦前のフィリピンの写真に関心を持ってくださったことをきっかけに実現。PNLSCからは猪俣代表、青木理事、事務局長石井が参加。フィリピンへ写真寄贈を検討していた青木澄夫氏も同席。
- ② 10月28日、ミレーン大使の沖縄滞中、平和祈念資料館、公園、ダバオの碑などへ案内し、沖縄ダバオ会役員メンバーとの意見交換会の実施を仲介した。

(6) 沖縄県知事への働きかけ

12月18日、一時帰国中のアカヒジサムエルさんとカナシロロサさんと共に、猪俣代表が沖縄の玉城デニー県知事を訪問。残留2世の父親には沖縄出身者が多いことや、地上戦に巻き込まれて公的書類が焼失している現状は沖縄と酷似していることなどを説明し、フィリピン残留者への理解と支援をお願いした。



参議院「政府開発援助等及び沖縄・北方問題に関する特別委員会」で 塩村議員に上川外務大臣が「取り組みの加速化を積極的に検討」と答弁

12月6日の参議院特別委員会で、立憲民主党の塩村あやか参議院議員が、フィリピン残留日本人の早期国籍回復と、同月に予定している2名の来日に際して政府としての出迎えを要望。上川陽子外務大臣は「高齢化が進む残留日系人の方々の一日も早い国籍回復をはじめとした支援の必要を認識」「フィリピン政府とも意思疎通しながらこれまでの取り組みを加速化させる方策を積極的に検討したい」と答弁、自見はなこ内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）も「沖縄から多くの県民が移り住んだと認識。沖縄担当大臣として外務省の支援を注意深く見守りつつ沖縄振興の枠組みから協力を検討したい」と答弁した。結果として沖縄において外務省の宮川沖縄担当大使との面談が実現した。



5・フィリピン残留日系人社会の 経済的、文化的発展のために寄与する事業

（1）パラワン島タイタイでリッターオブライght制作と実用化実験を支援

2022年8月の第一回総会でリッターオブライght製作ワークショップを経験したパラワン日系人会が、実際に電気を切実に必要とするパラワン島北部のタイタイのシグピット村(未電化地域。ハラダファミリーが多く住む)をプロジェクト地を選び、実用化実験を行うのを支援した。1月22日にマニラからシグピット村へ海路で運び込まれた165本の資材が日系人会スタッフにより全家庭に配布され、村のリーダーが組み立てを学んだ。村の道路や集会所などに4本のリッターオブライghtによる街灯が設置された。

2022年4月—2023年3月を期間とするアジア生協協力基金による助成金で実施。またリッターオブライghtの資材及び運搬費はIKEAフィリピンの支援を受けた。



リッターオブライghtとは

ペットボトルを再利用した小型太陽光発電装置で、フィリピン人イリアック・ディアス氏が普及に努めるオープンソーステクノロジー。その簡易性や利便性から世界の貧困地域でオルタナティブなエネルギー源として注目を集めています。



パラワン島北部のタイタイ・シグピット村にリッターオブライghtの灯りが灯った



（2）日系人会行事への参加及び支援

- ① 5月14日、4年ぶりにリアル開催されたダバオPNJKの第43回総会に猪俣が出席、国籍回復事業

の進捗を報告した。300人以上の日系人が参加する様子をテレビ朝日テレメンタリー取材班が撮影。

- ② 6月17日、マニラ市内で中部ルソン・マニラ日比協会（CLMNA）総会に猪俣代表が出席。外務省第17次調査の調査課題とマニラ支部の役割について説明した。参加者はオンライン含め70人。役員選挙も実施され、8月15日に行われた役員の就任式では猪俣が宣誓の証人となった。

300人以上が集まったPNJK総会(左)／中部ルソン・マニラ日比協会でも久しぶりのリアル開催となった(右)



- ③ 11月25日、ダバオでの移民120周年記念行事のタイミングで開催された連合会総会に、連合会顧問として河合弁護士が出席。一人も取り残すことなく日本国籍を回復させるために日本社会に再度問題を知らしめる必要があると表明。猪俣、ズニエガ弁護士、事務局2名、会員数名もオブザーブ参加した。

(3) フィリピン日系人エッセイコンテストの企画と実施

2世から5世まで年齢層も広く、ステータス（身元判明や国籍取得状況）、出生地や居住地も異なり、様々な状況にある日系人の生の声を聴き、支援の在り方や協働の糸口をつかみたい、新たな才能を発掘したいという思いから、「PNLSC 発足20周年記念 フィリピン日系人エッセイコンテスト」を企画。会員企業を中心に協賛を募ったところ、7社から32万円の支援金と、航空会社2社からそれぞれ往復チケットを提供いただき、賞金額を提示して9月14日よりHP、SNS、チラシ、ニュースレター、口コミなどで募集を開始。締切の12月末までに34人から応募があった。3月12日にオンライン審査会を開き、各部門の入賞作品を決定し公表する予定。2024年には授賞イベントと入賞作品の出版を計画している。



6・その他事業

(1) 移民120周年記念行事とPNLSC設立20周年祝賀会

11月24、25日にダバオで開催されたフィリピンへの日本人移民120周年記念行事に、代表理事の河合弁護士と猪俣、理事の青木弁護士、事務局から石井、田母神が参加。このイベントについては正会員を中心に参加を呼びかけ、学生アルバイト1人、団体正会員3社、個人正会員2人、賛助会員1人が参加（部分参加を含む）。24日はカリナンのIMINフィリピン日本歴史資料館訪問、2世やPNJK役員とのフェロウシップランチ、ミンタル墓地を訪問した（ダバオPNJKがPNLSC一行のために企画してくれたもの）。

11月25日ミンダナオ国際大学ホールで開かれた公開講座（市民、学生、日系人向け）では、河合が、PNLSCの法的支援の成果と課題について、猪俣が、日系人会とともにやってきた人材育成支援や小規模起業支援、リッターオブライต์ワークショップなどの成果と展望について講義した。

25日夜の、移民120年とPNLSC設立20周年を兼ねた祝賀会では、PNLSCの20年を振り返る動画を上映。河合弁護士はズニエガ弁護士の伴奏で歌を披露した。



(2) 戦前の写真絵葉書コレクションのフィリピンへの里帰り（寄贈）を仲介

日本人写真師が写した戦前のフィリピンの写真、写真絵葉書のコレクションを、フィリピンに里帰りさせフィリピンの人に見てもらいたいという青木澄夫氏の依頼を受け、コレクションのフィリピン日系人会連合会への寄贈を仲介。現物とともに、全写真をデジタルデータ化し、当所でも保存すると同時に連合会、ミレーン ガルシア アルバノ在日本フィリピン大使にも送付した。



写真の一部は120周年行事の期間中にも展示された(左)

／当時の暮らしぶりを写した貴重な写真の数々は当所でもデジタルデータで保管



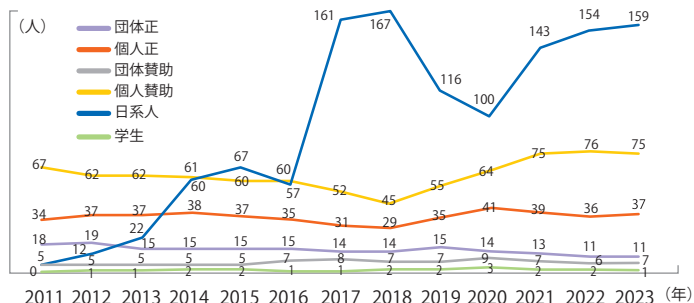


1・会員数

2023 年度 12 月末の
会員数は右の通り。

	団 体	個 人
正会員	11 (新入会 1、退会 1)	37 (新入会 2、退会 2、賛助から正会員に 1) ⇒ 増 1
賛助会員	7 (新入会 2、退会 1) ⇒ 増 1	75 (新入会 9、退会 10) ⇒ 減 1
日系人会員		159 (新入会 22、復帰 2、退会 19) ⇒ 増 5
学生会員		1 (新入会 0、退会 1) ⇒ 減 1

PNLSC 会員数の推移



2・会費・寄付の内訳

	件 数	金 額
正会員 (団体)	10 口	240,000 円
(個人)	36 口	432,000 円
賛助会員 (団体)	7 口	84,000 円
(個人)	71 口	426,000 円
学生会員会費		0 円
日系人会員会費	86 口	258,000 円
寄附 (98人+匿名、少額、役員等)	127 口	7,041,410 円

※認定 NPO 法人のパブリックサポートテストにカウントできる
寄付、賛助会費、日系人会費の総件数

217 件 (前年 227 件から 10 件減)

※認定 NPO 法人の期限が 3 月 19 日で切れるため、東京都 NPO 法人課に認
定期間の更新申請を 10 月 6 日に行った。これに先立ちセイエンのオンラ
イン講習を受講し、8 月 28 日には東京都の事前相談(対面)に行った。

3・組織体制

役員

代表理事 : 猪俣典弘/河合弘之
理事(継続): 伊藤英男/星 長吉/ジュセブン・
アウステロ/青木秀茂/関野 章
監事(継続): 伊藤佳江

事務局

猪俣典弘(代表理事・常勤)
石井恭子(事務局長・常勤) 田近陽子(常勤)
田母神葉子(常勤) 大友麻子(非常勤)
※学生アルバイト 3、4 人、定期ボランティア 1 人
※会計精査 奥田よし子税理士に委託

フィリピンでの 事業委託先

現地法人 PNLSC Inc. に委託
(会長: ジュセブン・アウステロ)

4・会議

- (1) 理事会 : 令和 5 年度第 1 回理事会
3 月 3 日(オンライン)
令和 5 年度第 2 回理事会
3 月 20 日(オンライン)
(代表理事の互選)
- (2) 総会 : 第 19 回通常総会
3 月 20 日(オンライン)
事務所移転に伴う定款変更のための
みなし総会 5 月 16 日に成立。
- (3) 事務局会議: 必要に応じて随時行った
(2023 年 1 月 12 日、6 月 9 日、
7 月 18 日、10 月 4 日、11 月 8 日)

5・その他

(1) ズニエガ弁護士が叙勲

PNLSC Inc. 顧問ジョスエ シム ズニエガ
弁護士が、フィリピンにおける日系人の福
祉向上に貢献してきた功績により「旭日単
光章」を叙勲した。4 月 21 日、越川大使
公邸にて執り行われた叙勲式には、猪俣、望月弁護士が参加した。



(2) 日比企業協議会設立 30 周年

日本フィリピン企業協議会の設立 30 周年式典(2 月 17 日、ダバオ)
に猪俣が参加した。

(3) 「かめのり賞」大賞受賞

「公益財団法人かめのり財団」が募集す
る「かめのり賞(人材育成部門)」に応募。
第一次の書類審査、第二次のプレゼンテー
ション(猪俣)を経て、<大賞>を受賞。
1 月 12 日に開かれた授賞式には河合代表
と事務局長石井が参加。副賞 100 万円は 1 月 15 日に振り込まれた。

